

SANTOMO **Market Report** 2025年5月号

Indonesia's Largest Palm Oil Technology & Equipment Expo!
Pameran Teknologi dan Peralatan Kelapa Sawit Terbesar di Indonesia!

 **15 YEARS**  **palmex®**
Indonesia 2025

Incorporating: **ASEAN Palm Oil CONFERENCE 2025** Organized By: **FIREWORKS** 

WELCOME TO PALMEX JAKARTA 2025!

 **14-15 MAY 2025** | **HALL A1 & A2**

WWW.PALMEX-INDO.COM | TIME: 10.00-17.00

インドネシアのFFB生産実績

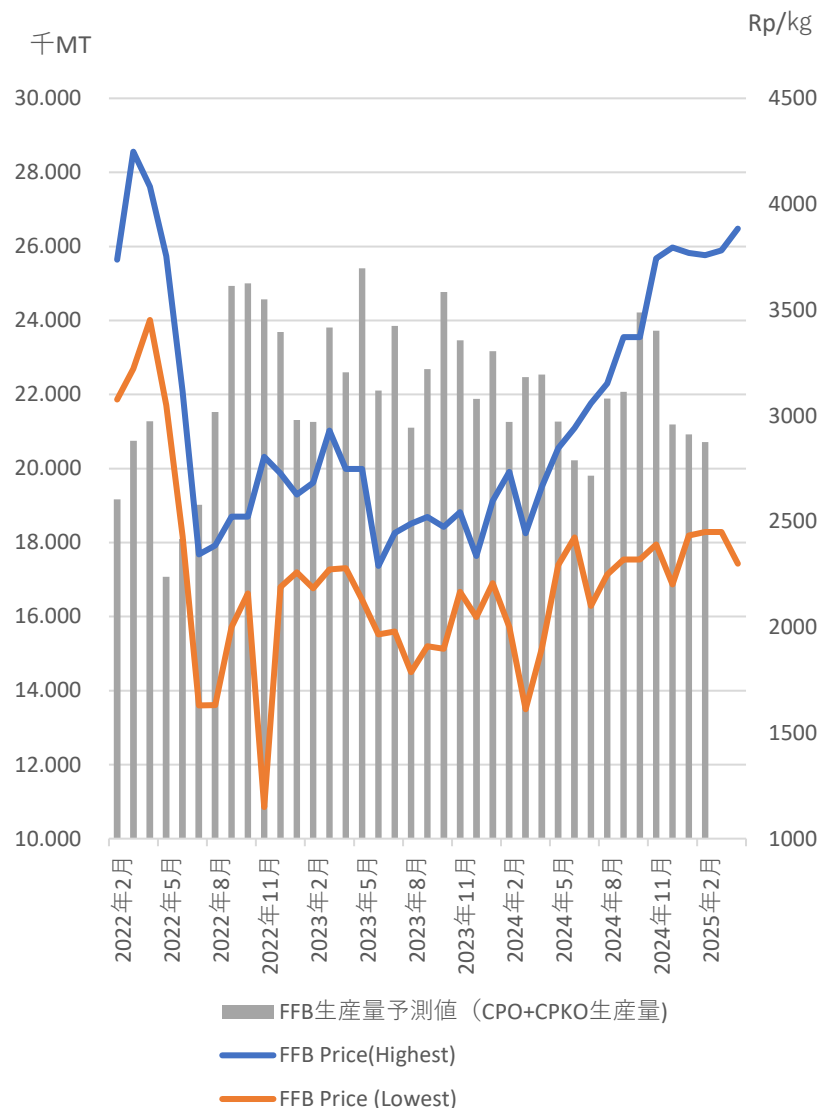
1. 実績

2025年4月のインドネシア国内22州での作付年齢10~20年の平均FFB価格は3,204 Rp/kgであり、前月の3月の3,197 Rp/kgより価格が微増している。4月中の最高価格は、西スマトラ州で3,844Rp/kg、最低価格は、南スラウェシ州で、2,300Rp/kgであった。

2. FFB生産量予測

2025年からパーム椰子を栽培している零細農家の樹齢の高齢化や、高齢化したパーム椰子の植え替え等で、FFBの生産量がおちるとみられている。
依然、雨期に入っておりFFBの生産性が制限されやすい状況が続いている。

インドネシア国内のFFB価格(最大・最小)
パームオイル生産量から推定されるFFB生産量



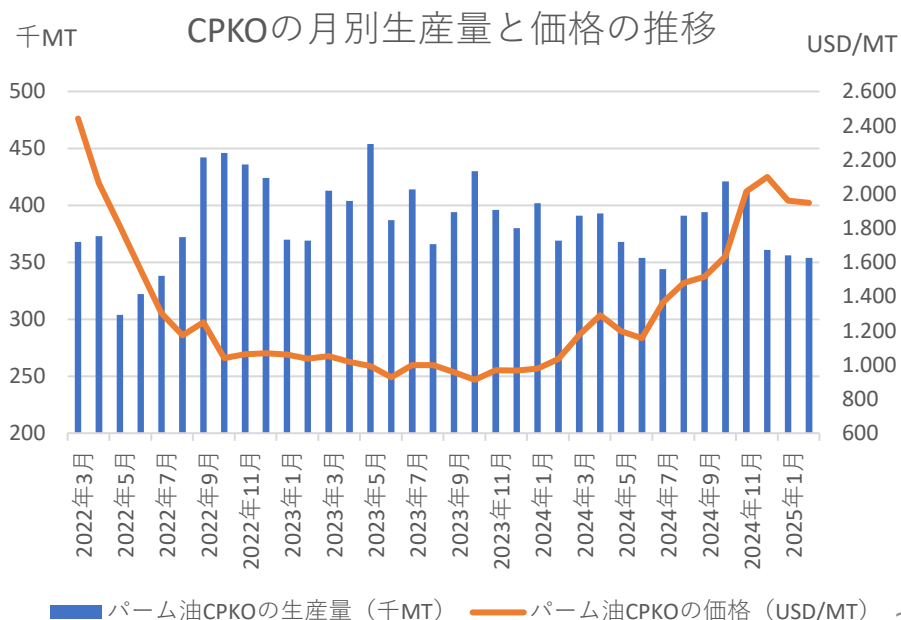
インドネシアのパーム油CPO及びCPKOの生産実績

1. 実績（CPO）

CPO（CIFロッテルダム）の平均価格は2025年3月の1,250 USD/MTと比較して2025年4月は1,154 USD/MTとなり、96 USD/MT（前月比で約8%）減少した。また、2024年4月のCPO平均価格1,066 USD/MTと比較すると、88 USD/MT（前年比で約8%）増加した。

2. 実績（CPKO）

CPKO（CIFロッテルダム）の平均価格は2025年3月の2,064 USD/MTと比較して2025年4月は2,090 USD/MTとなり、26 USD/MT（前月比で約1%）増加した。また、2024年3月のCPKO平均価格1,290 USD/MTと比較すると、800 USD/MT（前年比で約62%）増加した。



インドネシアからのPKSの輸出量及び輸出額実績

1. PKS輸出実績

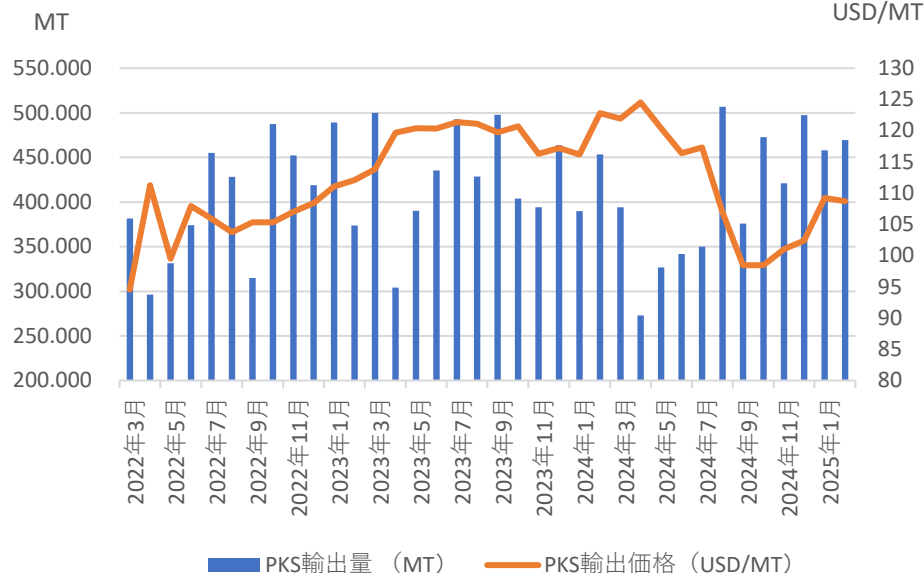
2025年3月のインドネシアのPKS輸出量は、446,686トンとなり、2024年2月の輸出量469,373トンと比較すると22,687トン（前月比で約5%）の減少となった。

前年2024年3月のPKS輸出量418,790トンと比較すると、2025年3月の輸出量は27,896トン（前年比で約7%）増加した。

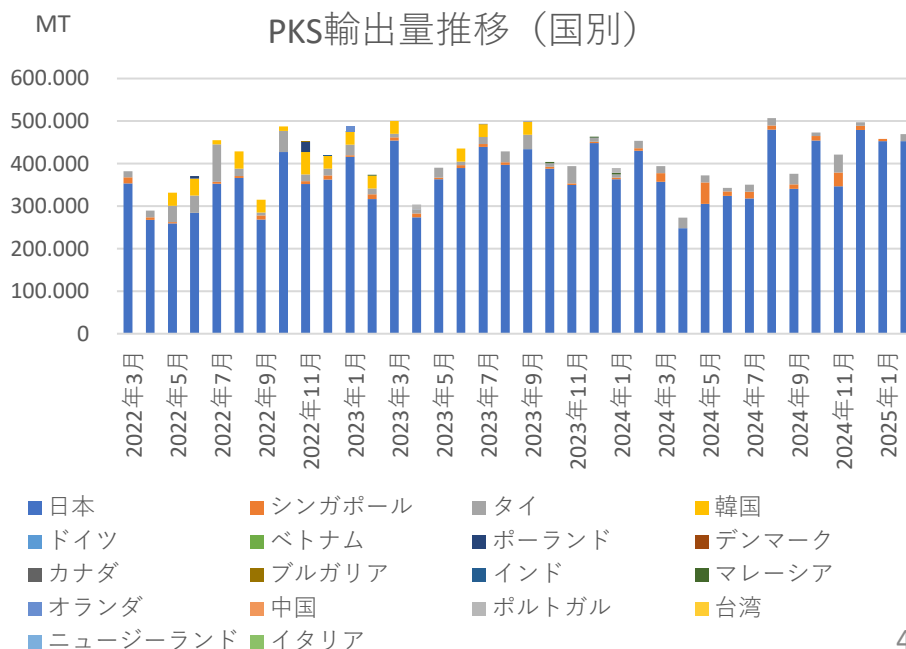
2025年3月のPKS輸出額は46,097,199USDを記録した。

2025年3月最大の輸出先は日本であり、輸出量は418,790トン、外貨換算額は43,412,237USDを記録した。（日本へのPKS輸出量は、インドネシア全体の輸出量の約94%を占める）日本への輸出量を2月の輸出量452,442トンと比較すると33,762トン（前月比で約8%）の減少となった。

PKS輸出量と輸出価格の推移



PKS輸出量推移（国別）



FFB、CPO、PKS、インドネシア国内施策の見通し

1. FFB価格、CPO価格の見通し

-4月以降に乾季に入るまでは、雨期の影響でFFBの生産が回復しない見込みであり、FFB価格の下げ要因は見当たらず、価格の高い状態が続くと予想される。一方、3月のFFB平均価格は増加が緩やかになり、CPO（CIFロッテルダム）平均価格は先月に比べ減少しており、降雨の影響が減るにつれて、価格が減少する可能性もある。

-パーム生産国であるインドネシアがB40のバイオディーゼル(CPO:40%、軽油60%の混合燃料)の販売計画に伴い、CPOの輸出能力が減少する見込みとなっている。

2. PKS価格の見通し

昨年10月に、大きくPKSの輸出量が減少し、PKSの価格も下がった。その後、輸出量が回復傾向にあり、PKSの価格も上昇している。雨期により、PKSの発生量が下げ基調であるため、PKS需要が価格へ影響することが予想される。

3. インドネシア国内の政策

パーム生産国であるインドネシアがB40のバイオディーゼル(CPO:40%、軽油60%の混合燃料)の販売計画に伴い、国内CPOの需要が高まっている。

また、エネルギー分野では、尼国のエナジーミックスの目標達成のため、EFB、Fiber、Frond、OPT等のPKS以外のパーム残渣が今後注目されていくと思われる。